２０２０年度　情報統括本部　教育基盤事業室　事業計画

教育基盤事業室

1　事業室のミッション

本事業は、情報通信技術(ICT)を利用した教育の実施のための環境を整備・運用し、利用を支援するものである。具体的には、主に以下の教育情報システムとしての、Web 学習システム、ホスト計算機、QUEENS システム、CALL システムによる教育学習環境の提供、および部局保有の遠隔講義システムのために多地点接続装置の管理・運用を行う。さらに 2013 年度から始まった学生 PC 必携化を円滑に進めるために必要な講習会の実施など、関連事業を行う。

(1) 教育情報システム
　① Web 学習システム等(Moodle、Mahara、BookQ)
　② ホスト計算機(プログラミング学習用 Linux サーバ、Web サーバ)
　③ QUEENS (Kyushu University Educational ENvironment Services)
　④ CALL システム(WebOCM Next)

(2) 学生保有 PC の利用支援および情報リテラシィ教材の提供

(3) アンケートシステム

(4) 教職員研修コース用 e ラーニングシステム

(5) 遠隔講義・会議装置用多地点接続装置の運用

2　事業計画等

(1) Web 学習システム等の管理・運用（１の(1)の①）

・サービス内容

Web 学習システム(Moodle、Mahara、BookQ)の管理・運用と利用者・コース登録などを行う。

・対象

学部学生、大学院学生、職員

・将来ビジョンと今年度の計画

学外からも利用可能な本システムの提供を継続し、より多くの講義で利用されるよう検討する。基幹教育院 LAC (Learning Analytics Center)、教育改革推進本部ラーニングアナリティクス部門と連携して、学習履歴の収集・分析、教育の改善に協力する。

また、今後増加する見込みの利用者に対応してさらに性能改善を行う。

さらに、教育データの利活用に向けて、教育データを匿名化し、匿名化データを蓄積するための基盤の構築を進める。

教育情報システムを構成する本システム並びに後述の(2)～(4)の各システムは、2021 年 3 月に更新となるため、次期システムの仕様検討を行い、仕様書作成を進める。

・特記事項

なし

(2) ホスト計算機の管理・運用（１の(1)の②）

・サービス内容

プログラミング言語や HTML の学習用の Linux サーバを運用する。

・対象

学部学生、大学院学生、職員

・将来ビジョンと今年度の計画

学外からも利用可能な本サーバの運用を継続する。

・特記事項

なし

(3) QUEENS の管理・運用（１の(1)の③）

・サービス内容

学生が保有する PC を使って行われる講義の受講者全員に同一の Windows デスクトップ及び Linux 環境を提供する。これらの環境は、必要な時に利用者自身で作成・消去が可能であるため、個人の PC に影響を与えることなく、実験的な演習にも利用できる。

・対象

学部学生、大学院学生、職員

・将来ビジョンと今年度の計画

受講者全員の環境を統一する必要がある講義や環境の作り直しが必要になるような講義での利用促進を検討する。

・特記事項

なし

(4) CALL システムおよび語学学習システムの管理（１の(1)の④）

・サービス内容

英語を中心とする語学学習システムの管理を行い、語学学習を支援する。

・対象

学部学生、大学院学生、職員

・将来ビジョンと今年度の計画

英語を中心として、語学学習に ICT を活用できる環境の提供を継続する。

・特記事項

なし

(5) 学生保有 PC の利用支援（１の(2)）

・サービス内容

学部新入生が保有する PC に、必要なソフトウェアのインストール、各種環境設

定を行えるように、Web ページにマニュアルを用意し、新入生が PC の設定を自分で行えるように必要な準備を行う。

また、大学院の新入生向けに対しても同様に、PC の設定を自分でできるような資料を準備し、提供する。

・対象

学部学生、大学院学生

・将来ビジョンと今年度の計画

学生自身が必要な設定を自宅で行えるように、Web ページの整備をさらに進め、原則、自宅での PC 設定作業を推奨していく。

基幹教育院、学務部学務企画課と連携して、安定的に運営できる体制を構築する。

・特記事項

なし

(6) 入学前学習の利用支援（１の(2)）

・サービス内容

Web 学習システムを活用して、情報倫理と Office の自習用教材を提供する。特に入学前の学生には、教材の利用を強く推奨している。

・対象

学部学生、大学院学生、職員

・将来ビジョンと今年度の計画

より多くの前期日程合格者に、入学前学習として「情報倫理」、「よくわかる Office」などの自習用教材を使用してもらえるよう検討を進める。

・特記事項

なし

(7) アンケートシステムの管理・運用（１の(3)）

・サービス内容

本学構成員に限定、本学構成員に限定だが匿名、学外者も含めて匿名のアンケートを行えるサービスを提供する。

・対象

職員

・将来ビジョンと今年度の計画

引き続き、本システムの運用を継続する。

・特記事項

なし

(8) 教職員研修コース用 e ラーニングシステムの管理・運用（１の(4)）

・サービス内容

Web 学習システム(Moodle)を学生の教育・学習専用とするため、職員を対象とし

たｅラーニング用コンテンツを扱う Web ベースの学習環境を提供する。

・対象

職員

・将来ビジョンと今年度の計画

自分がそのコースを受講済なのか未受講なのか容易に確認できることや、申請した部局の研修担当部署は自部局の受講状況を取得できるようになること等、本システムの特徴を公開し、積極的に利用してもらえるよう周知を進める。

・特記事項

なし

(9) 遠隔講義システム用多地点接続装置の運用（１の(5)）

・サービス内容

多地点接続装置(MCU)の管理・運用を行い、部局保有の遠隔講義システムの利用支援を行う。

・対象

職員

・将来ビジョンと今年度の計画

部局等が保有する TV 会議装置を一度に複数接続することができる MCU の運用を継続し、より多くの遠隔講義や遠隔会議、説明会で利用できるようにする。

・特記事項

なし

(10) 大橋キャンパスの情報環境整備

教育に必須のソフトウェアを学生の個人 PC で利用できる体制を整備できないことが明確になったので、大橋キャンパスで必要なソフトウェアを使える環境を整備し、運用を行う。

３　備考

なし

４　COVID-19 関連対応

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響ならびに感染拡大防止のために、2020 年度の春学期、夏学期は大学の講義を原則オンラインで実施することになっている．オンライン授業対応のために、本計画書を提出する時点までの事業室の取り組みと今後の計画について記載しておく。

(1) 実施済みの取り組み

・オンライン試行授業

M2B システムやオンライン会議システムの負荷テストを行うために、200 名規模の学生を動員してオンライン授業の試行授業を実施した。

・オンライン授業マニュアル作成

オンライン授業で利用するシステムやツールの使い方などを記載したシステム利用マニュアルを整備した。

・Moodle 負荷状況可視化

Moodle の負荷状況を利用者にわかりやすく提示するためのプラグインを開発し、全コースに導入した。

・サーバの増強

オンライン授業時の集中アクセスに耐えられる、M2B システムを稼働させている AWS サーバのスペックアップを行った。

(2) 実施中、実施予定の取り組み

・システム利用サポート事務局

オンライン授業で利用するシステムの基本的な使い方に関する問い合わせ対応を行うサポート事務局を運営する。

・ビデオ会議システムの導入検討

一斉授業とグループディスカッションを切り替えることができる機能を有するビデオ会議システムの導入を検討する。